

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:平成 31年 2月 21日

事業所名 オールケア旭

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用される児童によって、物の配置などの工夫、整理スペースを確保している。	更に快適で適切なスペースの確保が出来るよう整理整頓等工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な配置はあるが時間帯によっては、法人内事業所より更に手厚い支援の為応援に来てもらっている。	配置数は常に満たしているが今後もそれ以上の体制を取れるよう連携を強化していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差が無く手すり等も設置されている。	トイレスペースが狭いなどの意見有り。適切なスペースの確保と整備をする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を設定し、会議の場で周知、振り返りを継続的に行っている。	PDCAサイクルについて、職員に周知を更に徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート、支援計画のモニタリングを活用し、業務改善に務めている。	保護者へのアンケート結果を職員全員にも更に周知し、改善策を全員で共有する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	結果をスタッフにも更に周知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		今回の評価も含め改善策を明確にした上で公開し、情報の共有を図っていく。	情報の共有を図る。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での研修や外部の研修があれば周知し、研修に参加している。	今後も積極的に参加し研修内容を共有できる場を増やす。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者との面談を行い、ニーズ等を聞き取り、計画書に反映して支援を行なっている。	ニーズや課題を職員間で共有し、計画に反映させる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	現在使用しているアセスメントツールの統一を行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合い活動プログラムの立案を行っている。	スタッフ間での情報共有を強化する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節、月ごとに変化をつけテーマを決めて行っている。	更に新しい活動も試案していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日、長期休暇等利用時間が長い時には、特に日頃出来ない事をして変化をつけている。	更に新しい活動も試案していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性を把握して、支援を行っている。	より具体的な内容を定める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで役割を確認している。	支援開始前の打ち合わせを更に具体的にを行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に行っているが、全員の職員とは出来ず申し送り等で共有している。	更に情報の密な共有を徹底する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にして、次の課題へと繋げている。	各利用者様ごとに月間で情報等をまとめているが更に細やかな記録に努める。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとの見直しや必要時には送迎時やデイに来て頂き、モニタリングを行っている。	今後も、モニタリングを定期的に行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		日々の創作活動、レクリエーションへ参加している。	今後、バランスを考慮した上で総則の内容に沿った支援を行っていく。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		日常から関わっているスタッフ、看護師、責任者が参加している。	今後も積極的に参加し連携する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校主催の連絡調整会議への参加。HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っている。	今後も学校主催の連絡調整会議への参加、HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医指示書等を通し連携している。主治医面談への参加。	更に密接な関係を取っていくよう努める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		事業所見学等行って情報共有はしている。全ての就学前に利用していた事業所等との情報交流は出来ていない。	今後も積極的に情報共有を行う
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		個人情報に配慮しながら対応をしている。	今後も、個人情報に十分配慮しながら対応をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		相談支援も交えて情報交換を行っている。	今後も、相談支援も交えて情報交換を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		近くの高校の吹奏楽部の演奏を聴きにいく機会や、祝日にはスタッフの家族(子ども)が来て一緒に絵本読みをする機会を作っている。	今後も、積極的に機会を作る。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今後も、積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートの活用、送迎時の申し送り、面談で共通理解を図っている。	更なる情報共有を図る。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		必要時は行っている。	今後はより積極的に動いていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時・面談時に行っている。	今後も分かりやすい説明に努め、変更時には手紙等でお知らせする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時やイベント時にお話をさせて頂いているが、必要と感じた時には、その都度時間を設けて応じている。	必要時には、その都度時間を設けて対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		色々な形での取り組み(提案)はさせて頂いているが、参加するメンバーが少ない。	今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		すぐに報告をあげてもらい、責任者や役職者が対応をしている。	今後も、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		不定期ではあるがブログの更新や、機関誌を発行し、デイでの様子を発信している。	積極的に発信をしていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		配慮している。	今後はより一人ひとりに合った配慮を選択していく必要がある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事の前には近隣の方にもチラシを配布し、事業所の前にもチラシを貼って周知している。	地域に根ざした事業展開に努める。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	それぞれのマニュアル作成をしている。	周知を徹底し、活用できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	安全委員が主となり、定期的実施している。	継続して行い、保護者の方にも周知する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部から講師を招いたりなど、不定期で行っている。	今後も定期的に研修を行い意識向上に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	個別支援計画に記入し、定期的に振り返り確認した上で、記録に残している。	保護者の方にも説明を行い、記録に残していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者からの聞き取りで対応している。	今後も保護者からの聞き取りを行い、必要時には対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	共有・周知をしている。	今後もファイリングして残していく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表:平成 31年 2月 21日

事業所名 オールケア旭

保護者等数(児童数) 34

回収数 28

割合 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない 又は 無回答	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	5	0	0		各部屋の整理整頓を日頃から行い、活動スペース等を確保するように取り組んでいる。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	3	0	0		基準を満たした職員配置を行っている。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	28	0	0	0		スロープが設置されており、全面的に段差が無い環境である。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	22	4	1	0	テレビの時間は少なく、何か課題を与えてほしい。	更に一人ひとりのニーズに合った過ごし方を計画・立案し、明確化した上で実践していく。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	21	6	1	0		ある程度繰り返し行うことも必要だが、それ以外に関しては、マンネリ化しない様、工夫していく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	14	4	0	希望しない為なくて良い。希望に応じた対応をしてほしい。	学校休日のご利用の際、地域の公園などに遊びに行く等の活動を取り入れている。家族様によって希望されない方もいる為、それぞれの意向に沿った配慮をする。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	24	4	0	0		契約時や変更時には、説明している。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができていくか	26	2	0	0		今後更にノート記入や送迎時、電話での申し送りを密に行っていく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	21	7	0	0		面談以外でも送迎時等に、ご家族に対し育児に関する問いかけを行っている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20	6	2	0	開催されても人数が少ない為、連携できているのか不明	色々な形での取り組み(提案)はさせて頂いているが、参加者が少ない事実を踏まえ、今後の機会を設けて連携の強化をしていく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	20	7	1	0	苦情を申し立てたことがないので、わからない。	引続き苦情やクレームがあった場合問題点と改善策を検討し迅速に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	25	2	1	0		必要に応じて経過記録の保護者記入欄や事業所欄に申し送りなどを記入している。また直接送迎の際に添乗から申し送りを行ったり電話での申し送りを行っている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	25	3	0	0		イベント後は特にホームページ(ブログ)の更新を積極的に行っている。また、機関紙の更新も継続して行い、日頃の児童の様子をより積極的に発信していく。
14 個人情報に十分注意しているか	24	3	1	0	居宅にも入ってもらっている為、家族の生活も含めてより徹底してほしい。	契約時には個人情報についての同意書は頂いているが、行事等に於いても再度確認を行っている。又、スタッフの更なる意識向上を図る。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	18	10	0	0		今後、HPや会報誌、保護者会等で各マニュアルについて伝えていく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	18	1	0		月1回の避難訓練を今後も実施し利用児様に満遍なく参加して頂けるように実施する曜日を選択し実施する。実施していることを保護者の方にも報告し、情報の共有を図る。
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	27	1	0	0	学校からデイに行くことをすごく楽しみにしているの、安心して預けることができる。	個々の利用児様の状況に応じて工夫をし、楽しんでいただけるように質の向上に努めていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	27	1	0	0	いつも親身になってくれるので、親子共々感謝している。	今後も楽しんで頂けるようにモニタリングなどで聞き取りを行い日々の工夫していく。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:平成 31年 2月 21日

事業所名 オールケア児童デイあすなる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用される児童によって、物の配置などの工夫、整理スペースを確保している。	更に快適で適切なスペースの確保が出来るよう整理整頓等工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な配置はあるが時間帯によっては、法人内事業所より更に手厚い支援の為応援に来てもらっている。	配置数は常に満たしているが今後もそれ以上の体制を取れるよう連携を強化していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差が無く手すり等も設置されている。	トイレスペースが狭いなどの意見有り。適切なスペースの確保と整備をする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を設定し、会議の場で周知、振り返りを継続的に行っている。	PDCAサイクルについて、職員に周知を更に徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート、支援計画のモニタリングを活用し、業務改善に務めている。	保護者へのアンケート結果を職員全員にも更に周知し、改善策を全員で共有する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	結果をスタッフにも更に周知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		今回の評価も含め改善策を明確にした上で公開し、情報の共有を図っていく。	情報の共有を図る。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内での研修や外部の研修があれば周知し、研修に参加している。	今後も積極的に参加し研修内容を共有できる場を増やす。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者との面談を行い、ニーズ等を聞き取り、計画書に反映して支援を行なっている。	ニーズや課題を職員間で共有し、計画に反映させる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで周知して手順書等活用しながら行っている。	現在使用しているアセスメントツールの統一を行う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合い活動プログラムの立案を行っている。	スタッフ間での情報共有を強化する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節、月ごとに変化をつけテーマを決めて行っている。	更に新しい活動も試案していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日、長期休暇等利用時間が長い時には、特に日頃出来ない事をして変化をつけている。	更に新しい活動も試案していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性を把握して、支援を行っている。	より具体的な内容を定める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、終礼、ミーティングなどで役割を確認している。	支援開始前の打ち合わせを更に具体的にを行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に行っているが、全員の職員とは出来ず申し送り等で共有している。	更に情報の密な共有を徹底する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にして、次の課題へと繋げている。	各利用者様ごとに月間で情報等をまとめているが更に細やかな記録に努める。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年ごとの見直しや必要時には送迎時やデイに来て頂き、モニタリングを行っている。	今後も、モニタリングを定期的に行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		日々の創作活動、レクリエーションへ参加している。	今後、バランスを考慮した上で総則の内容に沿った支援を行っていく。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		日常から関わっているスタッフ、看護師、責任者が参加している。	今後も積極的に参加し連携する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校主催の連絡調整会議への参加。HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っている。	今後も学校主催の連絡調整会議への参加、HPでの情報収集、送迎時に先生との情報交換などを行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医指示書等を通し連携している。主治医面談への参加。	更に密接な関係を取っていくよう努める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		事業所見学等行って情報共有はしている。全ての就学前に利用していた事業所等との情報交流は出来ていない。	今後も積極的に情報共有を行う
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		個人情報に配慮しながら対応をしている。	今後も、個人情報に十分配慮しながら対応をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		相談支援も交えて情報交換を行っている。	今後も、相談支援も交えて情報交換を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		近くの高校の吹奏楽部の演奏を聴きにいく機会や、祝日にはスタッフの家族(子ども)が来て一緒に絵本読みをする機会を作っている。	今後も、積極的に機会を作る。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今後も、積極的に参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートの活用、送迎時の申し送り、面談で共通理解を図っている。	更なる情報共有を図る。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		必要時は行っている。	今後はより積極的に動いていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時・面談時に行っている。	今後も分かりやすい説明に努め、変更時には手紙等でお知らせする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時やイベント時にお話をさせて頂いているが、必要と感じた時には、その都度時間を設けて応じている。	必要時には、その都度時間を設けて対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		色々な形での取り組み(提案)はさせて頂いているが、参加するメンバーが少ない。	今後、多くの機会を設けて連携の強化をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		すぐに報告をあげてもらい、責任者や役職者が対応をしている。	今後も、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		不定期ではあるがブログの更新や、機関誌を発行し、デイでの様子を発信している。	積極的に発信をしていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		配慮している。	今後はより一人ひとりに合った配慮を選択していく必要がある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事の前には近隣の方にもチラシを配布し、事業所の前にもチラシを貼って周知している。	地域に根ざした事業展開に努める。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	それぞれのマニュアル作成をしている。	周知を徹底し、活用できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	安全委員が主となり、定期的実施している。	継続して行い、保護者の方にも周知する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部から講師を招いたりなど、不定期で行っている。	今後も定期的に研修を行い意識向上に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	個別支援計画に記入し、定期的に振り返り確認した上で、記録に残している。	保護者の方にも説明を行い、記録に残していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者からの聞き取りで対応している。	今後も保護者からの聞き取りを行い、必要時には対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	共有・周知をしている。	今後もファイリングして残していく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表:平成 31年 2月 21日

事業所名 オールケア児童デイあすなる

保護者等数(児童数) 34

回収数 28

割合 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない 又は 無回答	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	5	0	0		各部屋の整理整頓を日頃から行い、活動スペース等を確保するように取り組んでいる。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	3	0	0		基準を満たした職員配置を行っている。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	28	0	0	0		スロープが設置されており、全面的に段差が無い環境である。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	22	4	1	0	テレビの時間は少なく、何か課題を与えてほしい。	更に一人ひとりのニーズに合った過ごし方を計画・立案し、明確化した上で実践していく。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	21	6	1	0		ある程度繰り返し行うことも必要だが、それ以外に関しては、マンネリ化しない様、工夫していく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	14	4	0	希望しない為なくて良い。希望に応じた対応をしてほしい。	学校休日のご利用の際、地域の公園などに遊びに行く等の活動を取り入れている。家族様によって希望されない方もいる為、それぞれの意向に沿った配慮をする。
保護者 への 説明 等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	24	4	0	0		契約時や変更時には、説明している。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができていくか	26	2	0	0		今後更にノート記入や送迎時、電話での申し送りを密に行っていく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	21	7	0	0		面談以外でも送迎時等に、ご家族に対し育児に関する問いかけを行っている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20	6	2	0	開催されても人数が少ない為、連携できているのか不明	色々な形での取り組み(提案)はさせて頂いているが、参加者が少ない事実を踏まえ、今後の機会を設けて連携の強化をしていく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	20	7	1	0	苦情を申し立てたことがないので、わからない。	引続き苦情やクレームがあった場合問題点と改善策を検討し迅速に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	25	2	1	0		必要に応じて経過記録の保護者記入欄や事業所欄に申し送りなどを記入している。また直接送迎の際に添乗から申し送りを行ったり電話での申し送りを行っている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	25	3	0	0		イベント後は特にホームページ(ブログ)の更新を積極的に行っている。また、機関紙の更新も継続して行い、日頃の児童の様子をより積極的に発信していく。
14 個人情報に十分注意しているか	24	3	1	0	居宅にも入ってもらっている為、家族の生活も含めてより徹底してほしい。	契約時には個人情報についての同意書は頂いているが、行事等に於いても再度確認を行っている。又、スタッフの更なる意識向上を図る。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	18	10	0	0		今後、HPや会報誌、保護者会等で各マニュアルについて伝えていく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	18	1	0		月1回の避難訓練を今後も実施し利用児様に満遍なく参加して頂けるように実施する曜日を選択し実施する。実施していることを保護者の方にも報告し、情報の共有を図る。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	27	1	0	0	学校からデイに行くことをすごく楽しみにしているの、安心して預けることができる。	個々の利用児様の状況に応じて工夫をし、楽しんでいただけるように質の向上に努めていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	27	1	0	0	いつも親身になってくれるので、親子共々感謝している。	今後も楽しんで頂けるようにモニタリングなどで聞き取りを行い日々の工夫していく。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

別添資料5

公表：平成 31 年 2 月 21 日

事業所名 オールケア旭ノア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		安全に配慮し環境整備に努めている。	利用児の状況に応じて安全に配慮し環境整備に努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員配置は十分だが、より質の良い支援に努める。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリーであり、特性に合わせた情報伝達を工夫している。	更に個々の特性に応じた対応を工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		掃除・消毒の徹底や季節の壁面作成等	更に安全で快適な空間を保持する
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		法人内部の研修や外部研修にも積極的に参加している。	さらに外部研修にも積極的に参加する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度、アンケートを実施、面談等により意向を把握し改善に繋げる。	より深く意向等を把握し、お役に立てる事業所となる。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホーム	○		毎年、ホームページに公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	法人内の部局で内部監査を実施し、業務改善に努めている。	第三者による内部監査の実施に、努める。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内部の研修や外部研修にも積極的に参加している。	研修内容の質の向上に努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		細やかなアセスメントを大切にしている	更に深い家族様の希望の聴き取りをしてスタッフ間でのニーズや課題を分析し、質の高い計画立案に活かす。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			全スタッフが共有できるようにしている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		出来るだけ具体的な支援の提案をする	さらに分かりやすく具体的な支援内容を設定する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個々の特性を把握し、支援している。	全ての活動にいつも支援計画を意識する。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全スタッフで意見を出し合いながら考えている。	様々な角度からの立案に努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々、レクリエーション担当がその日の利用児の状況に応じて行っている。	外部研修等にさらに参加し工夫する。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			個々の特性を把握し、支援している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時、職員間で共有。	朝礼時、その日の流れ・予定・分担や留意点を確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時、その日を振り返り・職員間で共有。	終礼時、その日を振り返り・気付き等を記録し職員間で共有。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にし、支援計画や評価に活かしている。	更に細やかな記録を徹底する。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		基本、6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	更に細やかなモニタリングに努める。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用児の状況・状態を把握している職員が参画している。	今後も積極的に参加し連携に努める
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要があればその都度連携を図っている。	今後とも保護者同意のもと、情報の共有、連携に努めていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		必要があればその都度連携を図っている。	今後とも保護者同意のもと、情報の共有、連携に努めていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要があればその都度連携を図っている。	今後とも保護者同意のもと、情報の共有、連携に努めていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			今後とも保護者同意のもと、関係する事業所等とも情報等を伝えていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			今後とも保護者同意のもと、関係する事業所等とも情報等を伝えていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		開催されている研修や見学会に参加し、必要時は連携を図っている。	更に研修等積極的に参加する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			近隣の地域小学校在籍している児童がいるので、子どもクラブの子ども達との交流を提案する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			地域自立支援協議会には、できるだけ参画していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時など悩み等があればお話を聞きし、助言・支援している	今後とも少しの変化に気付き悩み等があればお話を聞きし、助言・支援につなげる。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			ご家族様のご相談・支援ができる体制は作っている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、契約書・重要事項説明書等により説明を行っている。	更に丁寧な説明に努める。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日頃の利用児の様子を送迎時等に伝え、保護者の声も聴き取っている。	送迎時やモニタリング、面談など、その時以外でも悩み等があればお話をお聞きし、助言・支援につなげる。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		定期的に参観日の時に保護者懇談会を設けている	定期的に参観日の時に保護者懇談会を設けているが、さらに充実できるように努める。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご家族様のご相談・支援ができる体制は作っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等を通して活動状況を発信している。	年に数回お手紙でお伝えはしているが、今後は回数を増やして発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		定期的に職員に対して注意喚起をしている。	さらに個人情報の管理については、定期的に職員に対して注意喚起を実施する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々によって伝え方を工夫している。	更に特性等の配慮や工夫に努める。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事等の開催時には近隣住宅、学校等に案内状を送付している。	更に地域に開かれた事業所とするため、行事等の開催に努める
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的に防災訓練、感染症についての話をし、保護者にも手紙を配布している。	更に具体的な訓練を実施する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者に事前に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		保護者から聴き取り、今後必要があれば指示書を頂く。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例をミーティング等で活用し、職員間で共有	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止、権利擁護の研修を行っている。	定期的にさらに具体的な研修を今後も実施する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		保護者にも説明し、個別支援計画書に記載している。	今後も保護者に事前の説明を十分実施し、了解を得て個別支援計画書に記載する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

別添資料6

事業所名 オールケア旭ノア

保護者等数(児童数) 9名 回収数 9名 割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	7	2				人数その時の状況によって安全に過ごせるよう工夫している。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	8	1				適正な人数配置で行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9					全面的にバリアフリーにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9					安心して、リラックスできる環境を日々提供するよう努めている。
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	9					モニタリングや普段の申し送りの中で今本児にとって何が必要かを考えて作成している。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9					これからも子ども達主体で適切な支援内容を考えていく。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9					個々に合った支援を行う。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	9					日々楽しい療育を取り入れるよう工夫している。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4		1	演奏会や練習の見学等は日常では難しいので嬉しい。	地域の幼稚園や学校との交流の場を考える。
適切な支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	9					これからも重要事項説明書を通して説明していく。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	9					これからも個別支援計画を通して定期的に支援内容を説明していく。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	9					定期的実施していきたい。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	9				何でも気付いてくれて発達をよく見てくださる。	今後も小さな成長や変化も送迎の時や面談の時に家族様と共感していきたい。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	9					これからも更に的確な支援を行っていく。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	8	1				これからも参観日と合わせて開催していく。
	16 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	9					これからも丁寧に適切に対応する。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	9					これからも適切に配慮する。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	8	1				ホームページの発信を充実していく。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	9					これからも徹底して管理する。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	6	1		2	緊急時の連絡手段を電話以外で確保して欲しい。	保護者様にきちんとマニュアルを周知・説明していく。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	4	2		3		定期的に避難訓練を行っている。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	9				成長のためにもデイを利用して良かった。	毎日楽しく通所してくれるような環境を提供する。
	23	事業所の支援に満足している	9				大満足です。	満足していただける様これからも日々精進していく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資

公表:平成 31 年 2 月 21 日

事業所名 オールケア旭ノア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		安全に配慮し環境整備に努めている。	利用児の状況に応じて安全に配慮し環境整備に努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員配置は十分だが、より質の良い支援に努める。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		バリアフリーであり、特性に合わせ工夫している。	更に個々の特性に応じた対応を工夫する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年間目標を設定し、会議の場で周知、振り返りを継続的にやっている。	今後も日々の朝礼・終礼、ミーティング等で話し合いの時間を設け継続しより質の向上に努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度、アンケートを実施、面談等により意向を把握し改善に繋げる。	より深く意向等を把握し、お役に立てる事業所となる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年、ホームページに公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	法人内の部局で内部監査を実施し、業務改善に努めている。	第三者による内部監査の実施に、努める。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内部の研修や外部研修にも積極的に参加している。	研修内容の質の向上に努める。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		細やかなアセスメントを大切にしている	更に深い家族様の希望の聴き取りをしてスタッフ間でのニーズや課題を分析し、質の高い計画立案に活かす。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			全スタッフが共有できるようにしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全スタッフで意見を出し合いながら考えている。	様々な角度からの立案に努める。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々、レクリエーション担当がその日の利用児の状況に応じて行っている。	外部研修等にさらに参加し工夫する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇には、日ごろできない活動(季節のイベント・外出等)を行っている。	更に細やかな課題の設定を支援する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個々の特性を把握し、支援している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時、職員間で共有。	朝礼時、その日の流れ・予定・分担や留意点を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時、その日を振り返り・職員間で共有。	終礼時、その日を振り返り・気付き等を記録し職員間で共有。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を参考にし、支援計画や評価に活かしている。	更に細やかな記録を徹底する。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		基本、6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	更に細やかなモニタリングに努める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			ガイドラインは、今後とも職員間で周知徹底する。

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用児の状況・状態を把握している職員が参画している。	今後も積極的に参加し連携に努める
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		学校との直接的な情報共有はしていないが地域の小学校の利用児なので母を通じての間接的な連絡及び情報共有となっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医面談や医療的ケア主治医指示書の学校との共有	今後も当該学校とあわせて主治医面談をし、医療的ケア主治医指示書を共有できるように工夫する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		見学など積極的に連携	今後とも保護者同意のもと、情報の共有、連携に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		引継ぎ等できる限りの提供をしている	今後とも保護者同意のもと、関係する事業所等とも情報等を伝えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		開催されている研修や見学会に参加し、必要時は連携を図っている。	更に研修等積極的に参加する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		近隣の地域小学校在籍している児童がいるので、その機会を活かして子どもクラブの子ども達との交流を提案していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			地域自立支援協議会には、できるだけ参画していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時など悩み等があればお話を聞き、助言・支援している	今後多少の変化に気付き悩み等があればお話を聞き、助言・支援につなげる。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ご家族様のご相談・支援ができる体制は作っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、契約書・重要事項説明書等により説明を行っている。	更に丁寧な説明に努める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日頃の利用児の様子を送迎時等に伝え、保護者の声も聴き取っている。	送迎時やモニタリング、面談など、その時以外でも悩み等があればお話を聞き、助言・支援につなげる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			定期的に参加日の時に保護者懇談会を設けている	定期的に参加日の時に保護者懇談会を設けているが、さらに充実できるよう努める。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は、できるだけ当日中に訪問し聴き取りを実施している。	今後できるだけ当日中に訪問し聴き取りを実施する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等を通して活動状況を発信している。	年に数回お手紙でもお伝えはしているが、今後はさらに回数を増やして発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		定期的に職員に対して注意喚起をしている。	さらに個人情報の管理については、定期的に職員に対して注意喚起を実施する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々によって伝え方を工夫している。	更に特性等の配慮や工夫に努める。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事等の開催時には近隣住宅、学校等に案内状を送付している。	更に地域に開かれた事業所とするため、行事等の開催に努める

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	定期的に防災訓練、感染症についての話をし、保護者にも手紙を配布している。	更に具体的な訓練を実施する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に訓練を行っている。	更に具体的な訓練を実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止、権利擁護の研修を行っている。	定期的に更に具体的な研修を今後も実施する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	保護者にも説明し、個別支援計画に記載している。	今後も保護者へ事前説明を十分に実施し、了解を得て個別支援計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者から聴き取り、今後必要があれば指示書を頂く。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット事例をミーティング等で活用し、職員間で共有	ヒヤリハット事例をミーティング等で活用し、職員間で共有し事故防止に努めている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

別添資料11

公表:平成 31 年 2 月 21 日

事業所名 オールケア旭ノア

保護者等数(児童数) 1名 回収数 1名 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○					人数その時の状況によって安全に過ごせるよう工夫している。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	○					適正な人数配置で行っている。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○					全面的にバリアフリーにしている。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	○					モニタリングや普段の申し送りの中で今本児にとって何が必要かを考えて作成している。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	○					日々楽しい療育を取り入れるよう工夫している。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○				地域の幼稚園や学校との交流の場を考える。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○					これからも重要事項説明書を通して説明していく。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	○					今後小さな成長や変化も送迎の時や面談の時に家族様と共感していきたい。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	○					これからも更に的確な支援を行っていく。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	○					これからも参観日と合わせて開催していく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○					これからも丁寧に適切に対応する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	○					これからも適切に配慮する。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	○					ホームページの発信を充実していく。
14 個人情報に十分注意しているか	○					これからも徹底して管理する。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか				○		各マニュアル等を整備している。今後は保護者にも周知徹底をしていく。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				○		定期的に避難訓練・防災訓練を実施している。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	○					毎日楽しく通所してくれるような環境を提供する。
	18 事業所の支援に満足しているか	○					満足していたという様子がこれからも日々精進していく。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。